

特集

地域福祉の推進を重視した新たな共同募金を目指して



新たな募金手法の 開拓を推進



赤い羽根共同募金運動開始セレモニーでは、キンダーホーム園児、岩手ビッグブルズ、わんこきょうだいが募金を呼びかけました



「じぶんの町、そして岩手」を良くするため

深刻化する地域の
福祉課題を解決する共同募金

今年も「じぶんの町を良くするしくみ」を合言葉に赤い羽根共同募金運動が展開されています。

赤い羽根共同募金運動は終戦直後「国民のたすけあい運動」として始まって以来、戦後復興の一助としてその機能を果たしてきました。

そして60年以上を経て社会情勢が大きく変化し、地域に様々な福祉課題が山積している今、お寄せいただく募金の約7割は社会福祉協議会などが行う高齢者、障がい者、子ども達を支える地域福祉活動を推進するために活用されています。

残りの約3割は県全体の福祉課題を解決するためにNPO団体、ボランティア団体、町内会などを行う活動のほか、「災害等準備金」として災害時の備えのために使われています。東日本大震災ではこの準備金がいち早く使えるお金として被災地を支えました。また平成25年の豪雨・大雨災害時の災害ボランティアセンターの設置・運営費として使われました。

新たなパートナーと協働した
募金手法を開拓

共同募金を取り巻く状況は厳し

く、経済状況の悪化や住民意識等の変化などを要因として募金額が減少する中で、東日本大震災からの復興の取組みや少子高齢化、過疎化、ひきこもりや生活困窮者への対応など、複雑かつ深刻な課題に対応しなければなりません。そのためには活動財源の確保がますます重要となります。

地域福祉を重視した新しい共同募金を志向し、県共同募金会・市町村共同募金委員会が策定した「赤い羽根アクションプランいわて（平成26年度～30年度）」では、基本目標として「地域で社会の生活課題に取組む市民・団体への積極的な支援」「新たな募金手法を積極的に取り入れた募金の増額」などを掲げています。

県共同募金会（以下、県共募）ではアクションプランに掲げた目標を達成するため、様々な事業を展開しています。

例えば新たな募金手法の開拓として、企業、NPO、スポーツチームなど新たなパートナーと協働して募金の増額に取り組んでいます。

これまで岩手県立大学・企業・県共募が協働し、寄付金つき商品第1号となる寄付金つきボールペンの開発・販売を行ったほか、対象商品の売上げの一部が県共募に寄付される「あったかいわてプロ

ジェクト」しあわせ運ぶお買い物」では、スーパーマーケットを運営する株式会社グロリアが県内の全店舗でプロジェクトに取り組みました。

また、新たに岩手県庁生活協同組合「いわてけんちよう食堂」と、ふれあいランド岩手内の「ふれあいレストラン雲の信号」が同プロジェクトによる寄付つき商品（メニュー）の販売に取り組んでいます。

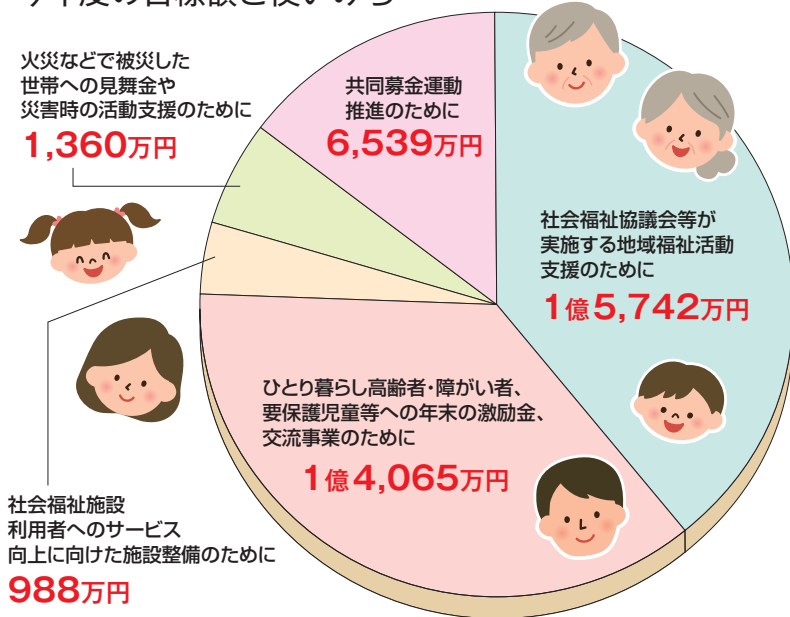
さらに売上げの一部が募金される「赤い羽根自動販売機」（※飲料関係各社・自動販売機設置主の協力）の設置促進や、プロバスケットボールチーム「岩手ビッグブルズ」の勝利募金、福祉分野以外の企業団体にも共同募金を理解してもらう異業種交流会など、様々な募金手法の開拓に取り組んでいます。

地域みまもり応援募金で
孤立する人たちを支える

そして「あったかいわてプロジェクト」しあわせ運ぶお買い物」に加えて、厚生労働大臣の告示を受けて、共同募金期間を拡大（1月から3月まで）し、地域で孤立する人たちを支える「あったかいわてプロジェクト」地域みまもり応援募金」を実施します。

同プロジェクト地域みまもり応援募金は、県共募が募集する「生活課題解決支援事業」で採択された団体の活動に、寄付者が団体及び活動を指定して寄付する募金です。

岩手県共同募金会 今年度の目標額と使いみち



今年度の目標額

3億8,696万円

赤い羽根募金
2億3,904万円
歳末たすけあい募金
1億4,792万円

平成25年度の共同募金実績

3億6,879万円

赤い羽根募金
2億2,653万円
歳末たすけあい募金
1億4,226万円



釜石シーウェイブスRFCからの応援メッセージ

地域福祉の応援団「赤い羽根サポーター宣言」から1年、今年も共同募金への応援の一環として、イオンスーパーセンター釜石店での街頭募金活動に取組みました。

これからも私たちの熱い試合を見ていただき、地域の皆様に元気や希望をお届けしながら、地域の福祉活動を支援していきます。

生活課題解決支援事業について

- 助成対象団体
県内社協、民生委員児童委員協議会、地域の福祉向上を目的に活動している県内のNPO法人、ボランティア団体
- 地域から孤立する人をなくす活動(例)
◎いじめ、ひきこもりに対応した地域でのサロン活動◎経済的困窮者のための就労準備支援事業◎障がいのある人の就労の場づくり◎DV被害者のシェルター運営◎不登校の子どもや生活困窮家族の子どものフリースクール◎ひきこもりの人たちの居場所づくり◎ホームレスへの支援◎災害による広域避難者に対する支援 など。

- 沿岸8市町村社協が実施する東日本大震災被災者支援事業

※助成は「プロジェクト」に寄せられた募金総額の範囲内で、1団体200万円を上限に1万円単位で行われます。

詳しくは岩手県共同募金会（☎019-637-8889）にお問い合わせください。

新しい募金のかたち

新たなパートナーと協働した募金手法の開拓①

売上げの一部が福祉活動を支える

「あったかいわてプロジェクト」

しあわせ運ぶお買い物

「あったかいわてプロジェクト」しあわせ運ぶお買い物」は、「募金百貨店プロジェクト」の岩手版として、対象商品の売上げの一部が県共同募金会（以下、県共募）に寄付され、地域の福祉活動に使われるものです。

（株）ジョイス（小菟米秀樹代表取締役兼社長執行役員）は、しあわせ運ぶお買い物ができる店として、県共募と覚書を取り交わし、今年6月1日～7月31日までの2か月間、県内33店舗で対象商品（※4種類の飲料商品、サントリーフーズ（株）が商品協力。1本につき2円を共同募金会に寄付）を販売。募金運動開始セレモニーで飲料募金196,342円を贈呈しました。

岩手ビッグブルズ「勝利募金」

「岩手ビッグブルズ」（株）岩手ス



岩手ビッグブルズから勝利募金の贈呈



（株）ジョイスから「あったかいわてプロジェクト～しあわせ運ぶお買い物～」による飲料募金贈呈



盛岡商工会議所女性会・青年部、岩手商工会議所連合会からグッズ募金贈呈

ポーツプロモーション山口和彦代表取締役社長）は、昨年10月1日に「私たちは赤い羽根共同募金運動の趣旨に賛同し、赤い羽根サポーターとなり、本運動に協力します」と宣言。試合で1勝することにより、000円を県共募に寄付する勝利募金の累計額40,000円を贈呈しました。

また、試合時の募金活動にも積極的に協力し、先ごろは一定額以上募金した来場者に「赤い羽根募金、岩手は強い！ビッグブルズ」と書かれたせんべい2種類を配りました。勝利募金は今年度も継続されます。

経済界の団体も支援

地域福祉の推進を重視した新たな共同募金活動に協力する盛岡商工会議所女性会・盛岡商工会議所青年部、岩手県商工会議所連合会など経済界の団体では、グッズ募金36,000円を贈呈しました。

事業内容と助成額

宮古市社会福祉協議会

自分たちで畑作り

作物づくりで、生きがいの提供と人と人とのコミュニケーションの促進を図り、誰もが復興に向けて前向きになれるよう支援（50万円）

大船渡市社会福祉協議会

たまには、かえっぺし大船渡

市外への避難者に帰省してもらい、復興の様子を見て、市民と交流を図り、元気になれるよう支援（380万円）

陸前高田市社会福祉協議会

～地域住民の親睦を深め、孤立を防ぐために～地域行事開催のための助成金

住民交流を図る地域行事開催のため助成を実施（768万円）

釜石市社会福祉協議会

見守りネットワーク強化事業

サロン活動を実施するNPOと仮設団地自治会が連携し、被災者ニーズに合わせた新たな見守りシステムを構築し、被災者を支援（150万円）

大槌町社会福祉協議会

おおつちまつりで会いましょう!

町外への避難を余儀なくされている方々を大槌祭りに招待し、大槌と避難者の絆を繋ぐきっかけをつくる（250万円）

山田町社会福祉協議会

「オレたち自慢の基地をつくりたい」～住民自ら作るいこいのスペース～

町内3か所の仮設住宅敷地内に、高齢男性が気軽に集える小屋を自分たちでつくる（80万円）

田野畑村社会福祉協議会

三鉄で結ぶ地域の和～お座敷列車deサロン～

全線復旧した三陸鉄道のお座敷列車を活用してサロンを開催し、住民同士のつながりの再構築を支援（80万円）

野田村社会福祉協議会

つながる結いこのだサロン

21地区の公民館等で毎月、ふれあいいきいきサロンを開催し、新たな住民のつながりを支援（50万円）

赤い羽根3・11
いわて沿岸地域
応援募金

ありがとうございました

県共募では、東日本大震災による被害が甚大であった沿岸8市町村の地域福祉活動支援のため、平成26年1月1日から3月31日まで募金期間を延長し、「赤い羽根3・11いわて沿岸地域応援募金」を実施しました。

おかげさまで皆様から応援をいただいた募金12,884,864円に、日韓共同募金会東日本大震災救援プロジェクトの助成金等を加えた18,080,000円を、左記の事業に助成することができました。

募金で実施した事業は、沿岸8市町村がそれぞれの復興状況に合わせて、自分の町で住民に必要とされる事業を選んだものです。次頁では、このうち大槌町社協「おおつちまつりで会いましょう」と、山田町社協「オレたち自慢の基地をつくりたい」住民自ら作るいこいのスペース」の取組みを紹介します。



新しい募金のカタチ

新たなパートナーと協働した募金手法の開拓②



10月9日、岩手県庁生活協同組合と覚書を交わしました（左が川村義彦 統括部長）



ふれあいレストラン雲の信号の「ふれあい定食」

「けんちよう食堂」「ふれあいレストラン」 寄付金つきメニューを提供中

1食につき20円の寄付

赤い羽根共同募金月間の10月9日、岩手県庁生活協同組合は「あつたかいわてプロジェクト」しあわせ運ぶお買い物」企画による寄付つき商品販売の覚書を県共募と交わしました。寄付つき商品は、けんちよう食堂の対象メニュー1食につき20円が県共募へ募金（購入者10円、県庁生活協同組合10円）されます。

覚書を交わした県庁生活協同組合の川村義彦統括部長は「寄付つき商品が地域の福祉活動、地域貢献に役立つことを嬉しく思います」と述べ、県共同募金会の古内保之専務理事は「プロジェクトの提案に全面協力して頂き、力強く思っています」と感謝の言葉を述べました。寄付つき商品の販売期間とメニューは次の通りです。

▽10月14日～17日・ラーメン

360円▽11月10日～14日・定食
560円▽12月15日～19日・丼物
530円。

毎月メニューが替わる
「ふれあい定食」

ふれあいランド岩手内の「ふれあいレストラン雲の信号」（菊地孝治代表）でも、10月9日から同プロジェクトによる「ふれあい定食」をスタート。募金期間中、毎月メニューが替わる寄付つき定食（税込込み750円で販売）の売上げから、20円が県共募に寄付されます。

▽10月（鮭の親子丼、芋の子汁、漬物、デザート）▽11月（季節の丼物、ひつまみ汁、漬物、デザート）▽12月（季節の丼物、季節の汁物、漬物、デザート）です。（※仕入れ材料により月内でも定食内容を変更する場合があります）

赤い羽根3・11 いわて沿岸地域応援事業

山田町社会福祉協議会

オシたち自慢の「基地」が完成

仮設住宅で生活する高齢男性達から「お茶会に参加しても楽しめない」「部屋から出るのが億劫だ」等々の声が寄せられていたことから、「自らの力で解決するための場所を、自らの力でつくる」をモットーに、町内3か所の仮設住宅（浦の浜仮設、町民グラウンド仮設、大浦漁村センター仮設）敷地内に、集える小屋（約8畳ほどのスペース）が建てられました。

まず材料を購入し、材料の刻み作業は仮設住宅で生活する大



浦の浜仮設住宅敷地内の小屋



町民グラウンド仮設住宅敷地内の小屋

笑顔が絶えないスペース

浦の浜仮設住宅（約100世帯）敷地内のいこいのスペースでは、佐々木茂男さんら数人が集い、「久しぶりに外仕事をし

まれる場所ができて良かった。遠慮なくお茶飲みができる」と話し、大工の佐々木さんは「大工経験が活かせて良かった」と笑顔。

また、町営体育館そばの町民グラウンド仮設住宅（約155世帯）敷地内の自慢の「基地」では、常時10人くらいの住民がカラオケなどを楽しみ、家庭的な雰囲気。蛇石宏さんは「仮設以外の地区住民も

集まり、1日中笑顔が絶えない」とカラオケを楽しみ、民生委員の大宮好子さんは「ひきこもり防止と絆づくり役に役立ち、他の仮設住宅でも欲しいという声が聞かれます」と話しています。事業担当課の佐々木まゆみ課長は「町内には43か所の仮設住宅と1か所の災害公営住宅がありますが、小屋づくりを通じて自分たちの問題は自分たちで解決するという自信を得、コミュニケーションが促進されています。部屋から出る機会も増えました」とし、心身の健康維持や住民の目が行き届くことによる防犯効果も期待できると話しています。

大槌町社会福祉協議会

懐かしい顔ぶれとふるさとで再会

震災後、やむなく大槌を離れざるを得なかった方々が大勢い

ます。避難者は故郷への思いを募らせ、焦り、迷いを抱きながら、帰れる日を待っています。

「おおつちまつりで会いましょう」は、こうした避難者を大槌まつり（9月20日～21日）に招待し、ふるさとでくつろいでもらい、避難者と大槌の絆をつなぐと開催しました。

参加者は盛岡市、北上市、花

巻市、遠野市、矢巾町、紫波町に避難している49名の方々。70歳～80歳代の方が多く、なかには親子連れもみられました。

参加者は神輿渡御を見物したり、他地区の避難者と情報交換したり、友人と再会したり、お墓参りをしたりと、それぞれ有意義な時間を過ごしました。

復興を後押ししたい
参加者からは▽避難者同士が交流できる事業▽町の復興のようすを知ることが出来る事業▽ふるさとサポーターとして復興を後押しできる事業などを求める声が多く聞かれました。



写真は山田町協「おおつちまつりで会いましょう！」のようす

三陸花ホテル（旧浪板観光ホテル）での交流会では、碓川豊町長から復興計画の取組み状況の説明があり、参加者は熱心に耳を傾けました。また、郷土芸能「白澤鹿子踊」を楽しみ、写真返却展（NPOまちづくりぐるっとおおつち）も開かれました。

事業運営には社協職員6人が当たり、盛岡・北上・花巻の3市社協が協力。総務課の川端伸哉係長は「町外に避難している方々に、いつまでもふるさと大槌を想って欲しいと1年掛かりで準備しました。帰ってきたらと思える町をつくりたい」と話しています。